

特集

機能強化型ステーションの 未来予想図

地域拠点としての機能とは？



全国訪問看護事業協会が2013年度に行なった「訪問看護ステーションの多機能化モデル事業」
（老人保健健康増進等事業。以下、多機能化モデル事業）が示唆深い成果を収めました。

地域包括ケアの要となるステーションの構築をめざした

この総合的な訪問看護事業に取り組んだステーションは全国で7つ。

それぞれの従来からの取り組みを土台に、

①多職種による助言・相談機能、②教育・研修機能、③情報拠点機能の3つの機能を実践し、
多機能・高機能をもつステーションが地域で果たしうる役割の可能性と必要性、

また、その課題が示されました。

折しも「機能強化型訪問看護ステーション」が2014年度診療報酬改定で位置づけられました。

機能強化型ステーションには、複数の高い機能を備え、利用者への直接のサービス提供にとどまらず、
地域包括ケアシステムにおける地域の「拠点」として発展していくことが期待されています。

その布石ともいえる「多機能化モデル事業」への取り組みを通して、
機能強化型ステーションの実際と未来の姿をイメージします。